

アロザウルス

“恐竜”それは誰をも引きつける名前ですが、回鑑でしか知らない人が多いでしょう。科学文化センターの自然史展示室“地史をにぎわした生き物たち”のコーナーには、この恐竜の一種であるアロザウルスの骨格標本が所せましと展示してあります。

● アロザウルスは、中生代のジュラ紀後期(約1億5,000万年前)から白垩紀前期(約1億2,000万年前)にかけて、おもに北アメリカにすんでいました。当館に展示してあるアロザウルスの骨格標本も、



- 展示室には、骨格標本(模型)が展示してあります。
- 標本は、こわれやすいので、手を触れないようにしましょう。

アメリカのユタ州から発見された化石から作られた模型です。体の長さは約10メートル、体の高さは約3.5メートルに達し、体重は2トンくらいであったと考えられています。展示してあるアロザウルスは、歩いている姿勢にしてあるので、やや低くなっています。アロザウルスのするどい歯や爪を見ていると、他の草食恐竜などを食べていた肉食の恐竜だと想像できます。アメリカのワイオミング州で尾の骨に傷あとのあるブロントザウルスという草食恐竜の化石が見つかったことがありますが、この傷あとがいっしょに発見されたアロザウルスの歯の形と一致していたといわれています。このことから、草食恐竜は恐って食べたことがはっきりしました。

恐竜は、ハ虫類の仲間ですが、その骨盤の構造から「竜盤目」と「鳥盤目」という2つのグループに分けられ、アロザウルスは、竜盤目のケモノリュウに入ります。日本では、当時大部分が海であったために、1938年に南樺太でみつけたニッポン竜（鳥盤目）や、1962年に長崎県でみつけたハドロザウルス（鳥盤目）など、わずかに知られている程度です。巨大なアロザウルスも、他の恐竜達と同様に、絶滅の運命をたどりますが、その原因はまだナゾにつつまれています。アロザウルスを観察して、遠く中生代の生き物の世界に思いをめぐらしてみるのが楽しいですね。（H.N）

富山市科学文化センター

TEL 91-2123

〒930-11 富山市西中野町3丁目1番19号

昭和54年11月10日発行